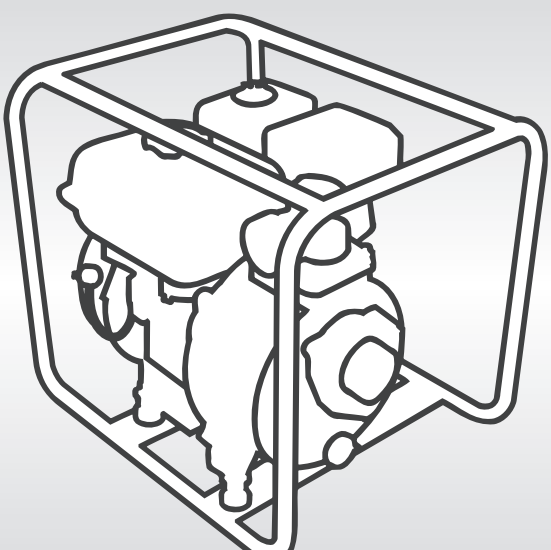
HONDA

ポンプ

WB20XT・WB30XT

取扱説明書



ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を
お読みください。

お買いあげありがとうございます。
お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、お買いあげいただいた販売店にお気軽にお申しつけください。

取扱説明書について
この取扱説明書は
・本機を操作するときは、必ず携帯してください。
・本機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
・紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店にご注文ください。

本製品は、（一社）日本陸用内燃機関協会の排ガス自主規制に適合したエンジンを搭載しています。

はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいたポンプで安全かつ能率的な作業をする手助けとして編集されたものです。
取扱説明書の中には、本機の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明してあります。
本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について
本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性を説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント
指示に従わないと、本機やその他のものが損傷する可能性があるもの

なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。
本書は WB20XT を中心にまとめてあります。

目次

安全にお使いいただくためこれだけはぜひ守りましょう.... 4
安全ラベル 7

各部の名称と取扱いをおぼえましょう 8
エンジンスイッチ....10
エンジン回転調整レバー 10
始動グリップ 11
チョークレバー 11
燃料コックレバー....12
よび水注入プラグ....12

ホースの取付けかた 13
吸引ホース 13
吐出ホース 14

エンジンをかける前に点検しましょう 15
燃料の点検 15
エンジンオイルの点検....17
エアクリーナー（空気清浄器）の点検....18
よび水の点検 19
ホースバンド、ホース連結器の締付け点検....20

エンジンのかけかた 21

エンジンのとめかた 25

定期手入れを行いましょう 27

点検・整備のしかた 28
エンジンオイルの交換 28
エアクリーナー（空気清浄器）の清掃 30
点火プラグの点検・調整・交換 31
燃料ろ過カップの清掃 32

長期間使用しないときの手入れ 33

故障のときは 35

主要諸元 36

安全にお使いいただくためこれだけはぜひ守りましょう

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

• 作業を始める前に

- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分にご理解の上操作してください。
- 間違いなく取扱うために各部の操作に慣れ、すばやく停止する方法を習得してください。
- 適切な指示、説明なしでは絶対に誰にも本機を運転操作させないでください。また、子供には操作させないでください。事故や、機器の損傷が起こる原因となります。
- 本機を他人に貸す場合は、取扱い方法を良く説明し、取扱説明書を良く読むように指導してください。
- 過労や飲酒、薬物を服用して本機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- 日常点検、整備を必ず行い本機を常に良好な状態にしておいてください。不具合のある状態や問題のある状態で操作すると、ケガをしたり本機を損傷する原因となります。
- ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して換気の良い場所で行ってください。
- 燃料を補給するときや燃料タンクの付近では、タバコを吸ったり炎や火花など火気を近づけないでください。
- 燃料はこぼさないように注意して所定のレベル（給油限界位置）を超えないように補給し、燃料給油キャップを確実に締めてください。もし燃料がこぼれた場合はきれいにふき取り、よく乾かしてからエンジンを始動してください。
- 排気ガス中には、有害な成分が含まれています。排気口は風通しの良い場所に向け、ご使用になる方はもちろん、まわりの人や動植物などにも十分注意してください。
- 室内、車内、倉庫、トンネル、井戸、船倉、タンク内など換気の悪い場所では使用しないでください。酸素不足や有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。

警告

- 本機は平坦な場所で使用してください。不整地（地面が凹凸していたり軟らかい場所）や傾斜地、崖の近くで使用すると、本機が振動により転倒、移動、落下し損傷するばかりでなく、燃料漏れにより火災のおそれがあります。
- 本機の改造は行わないでください。故障の原因となるばかりでなく思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- ガソリンなどの燃えやすい液体や、酸など酸性の強い液体には使用しないでください。本機を損傷するばかりでなく、火災や爆発などが発生し死傷事故を引き起こすおそれがあります。
- メタンガスなど可燃性のガスが発生する可能性のある場所では使用しないでください。火災や爆発などにより死傷事故のおそれがあります。また下水道などで使用する場合は、可燃性のガスが発生していないことを確認してから吸水してください。
- 海水、温泉水、化学薬品、油脂類などには使用しないでください。腐食を防止する対策は施されていないため故障の原因となります。
- 泥水を吸水しないでください。ポンプ内部が損傷するおそれがあります。

• 使用中

- 使用中は建物およびその他の施設から、本機を 1 m 以上離してください。また本機のまわりに危険物（油脂類、セルロイド、火薬など）や燃えやすい物（わらくず、紙くずなど）を近づけないでください。
  本機の熱や排気ガスにより火災のおそれがあります。
- 使用中に送水（吸水）しなくなった場合は、すぐにエンジンを止めてください。送水（吸水）しない状態で運転を続けると、ポンプ内の残水が過熱し誤って触れるとヤケドをするおそれがあります。
- 使用中や停止直後はエンジン本体やマフラーなどに触れないでください。熱によりヤケドをするおそれがあります。
- 使用中は本機を傾斜させたり、移動しないでください。転倒や振動などにより燃料漏れを起こすおそれがあります。

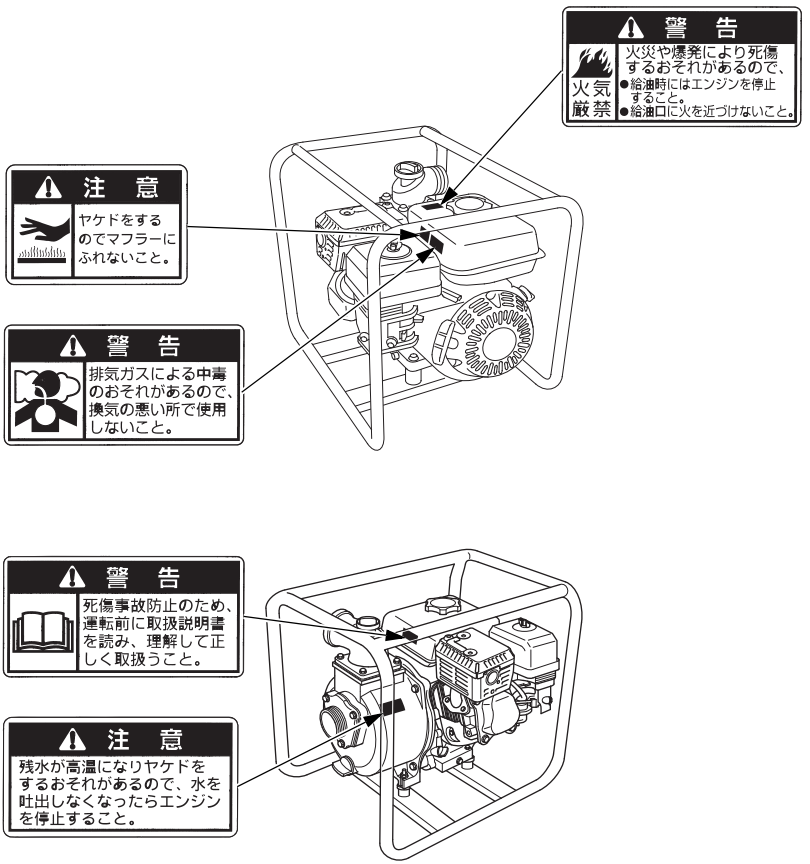
警告

• 使い終わったら

- 気温が低く水が凍結する気象条件で使用した場合は、排水プラグを外しポンプ内の水を抜いてください。ポンプ内に水が残っていると凍結し、部品が破損するおそれがあります。
- 各部の点検・清掃で本機に触れるときは、エンジンを停止し各部が冷えるまで十分に時間をおいてください。
- 長期保管前には、タンク内の燃料を抜き取り本機を火気や湿気のないところに保管してください。また、抜いた燃料は引火性があり、火災や爆発の危険があるので、所定の燃料タンクなどに入れ保管してください。
- 運搬時には、燃料タンク、キャブレター内の燃料を抜き取り、本機が転倒したり動いたりしないようしっかり固定してください。

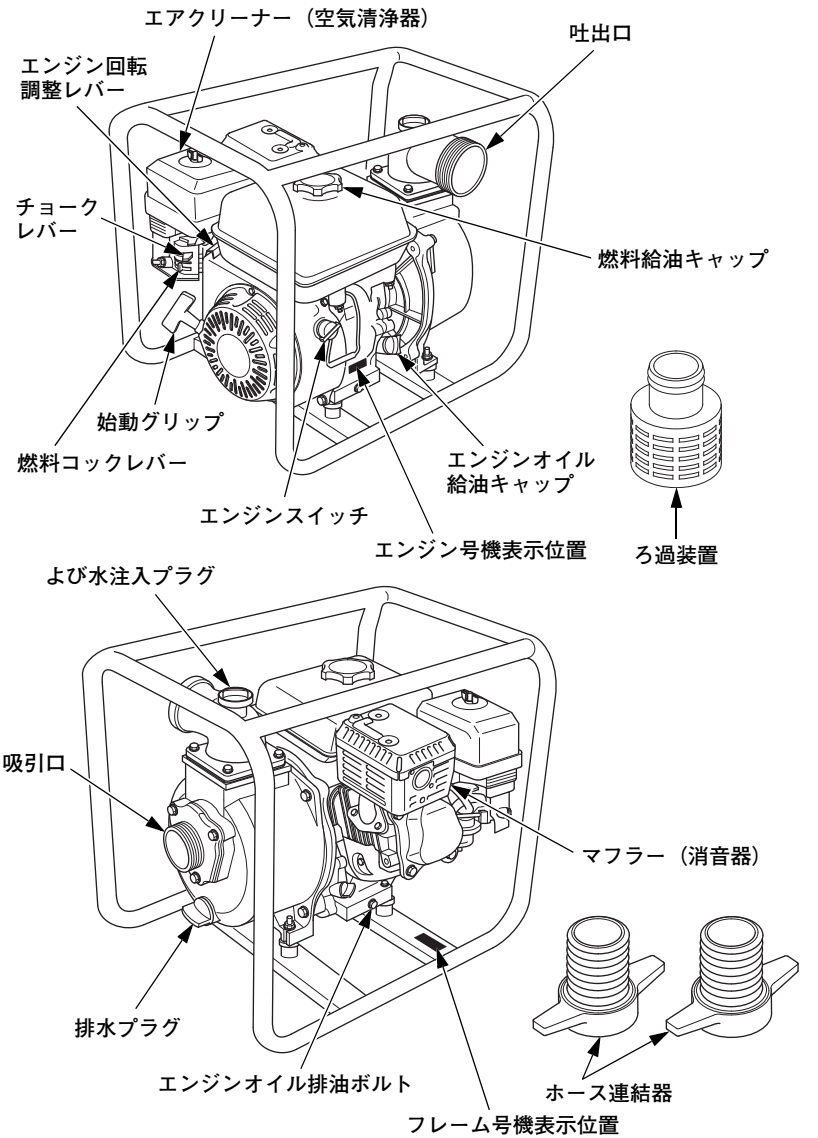
• 安全ラベル

本機を安全に使用していただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべてお読みになってからご使用ください。
本機に貼ってあるラベルの破れ、紛失または汚れなどでラベルが読めなくなった場合は、新しいラベルに貼り替えてください。また、安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しいものに貼り替えてください。ラベルの貼り替えについては、お買い上げ販売店へお問い合わせください。

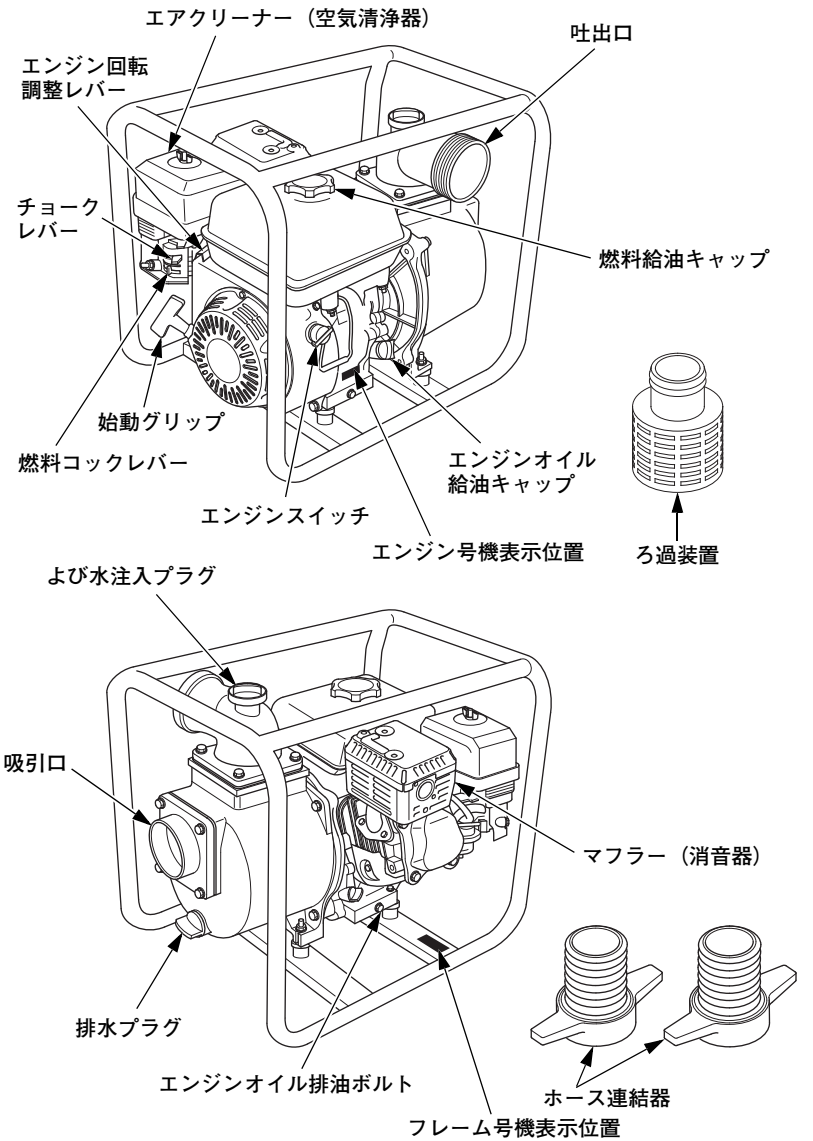


各部の名称と取扱いをおぼえましょう

• WB20XT

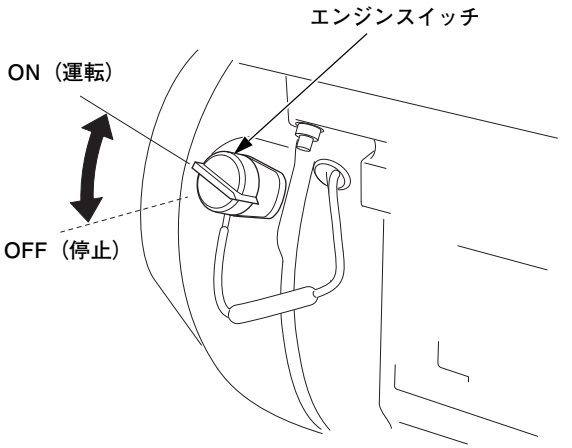


• WB30XT


エアクリーナー（空気清浄器）
吐出口
エンジン回転
調整レバー
チョーク
レバー
燃料給油キャップ
始動グリップ
燃料コックレバー
エンジンオイル
給油キャップ
エンジンスイッチ
エンジン号機表示位置
ろ過装置
よび水注入プラグ
吸引口
マフラー（消音器）
排水プラグ
エンジンオイル排油ボルト
ホース連結器
フレーム号機表示位置

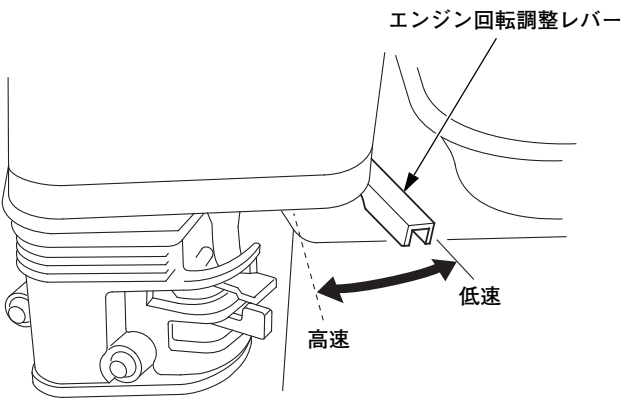
エンジンスイッチ

エンジンを運転、停止させるときに操作します。



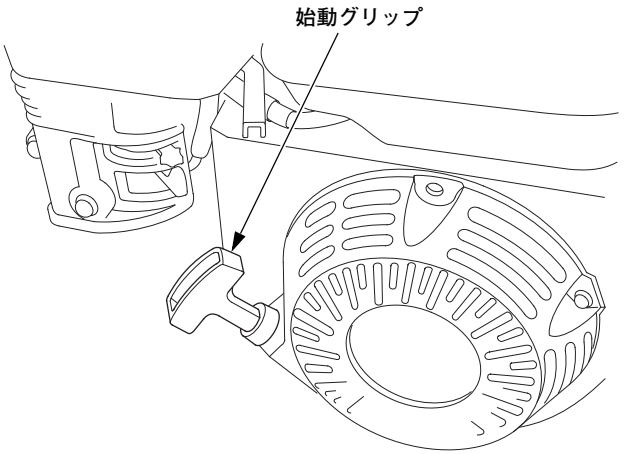
エンジン回転調整レバー

エンジン回転を調整するものです。
通常は “高速” の位置でご使用ください。



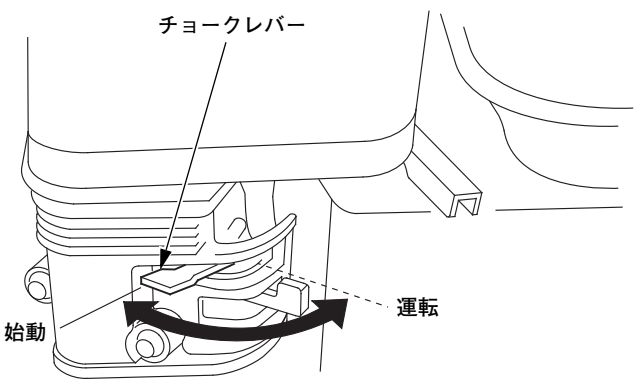
始動グリップ

エンジンを始動するときに操作します。



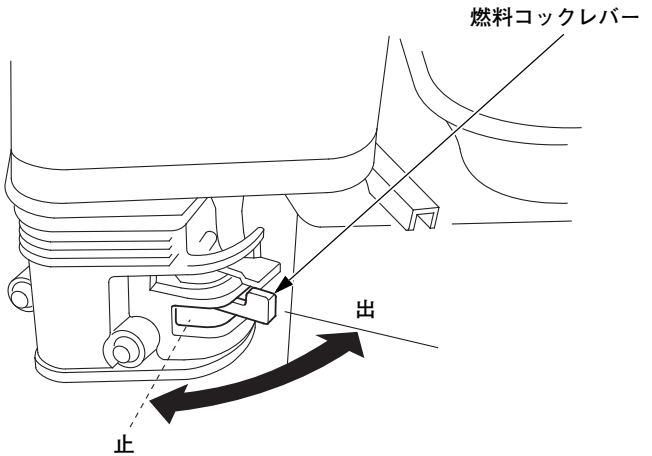
チョークレバー

エンジンが冷えているとき、またエンジンがかかりにくいときに操作します。



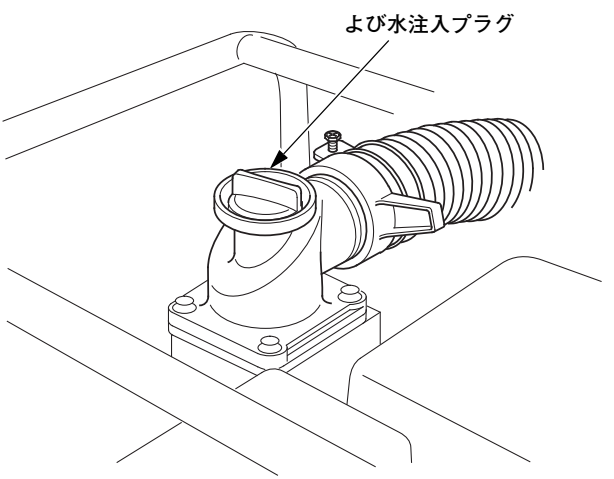
燃料コックレバー

燃料タンクからキャブレター（気化器）までの通路を開閉するときに操作します。
操作は確実に“出”“止”の位置に合わせてください。



よび水注入プラグ

ポンプによび水を注入するときに操作します。



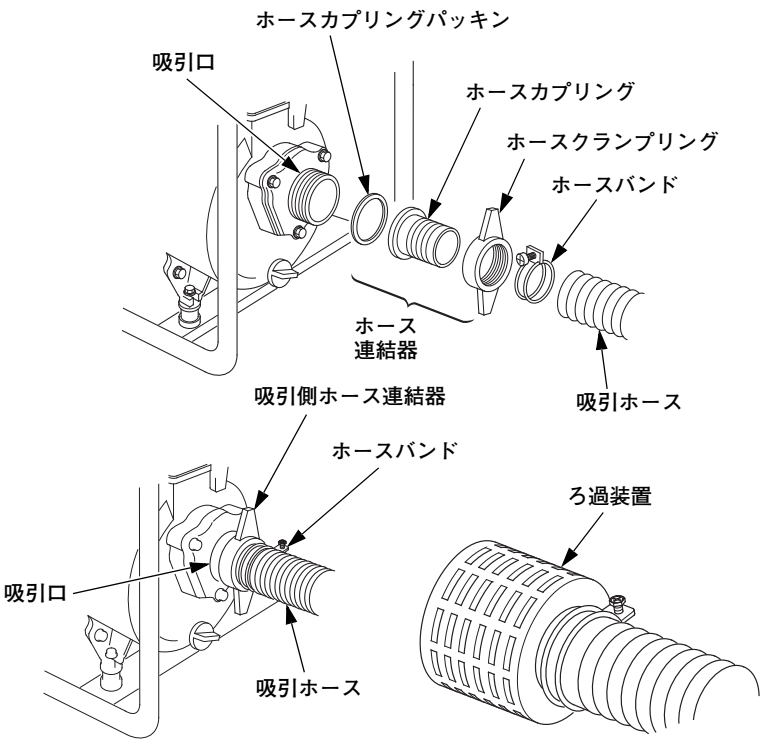
ホースの取付けかた

吸引ホース

1. 吸引側ホース連結器に吸引ホースを取付け、ホースバンドを確実に締付けます。
2. ホース連結器を吸引口に確実に締付けます。

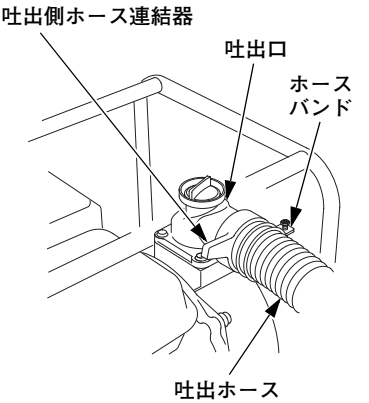
取扱いのポイント

- ホースバンド、ホース連結器を確実に締付け空気が入るのを防止してください。締付けが不完全だと吸水しない場合があります。
- 吸引ホースの長さは短いほど吸込量が多く、吸水時間が短くなります。極端にホースが長いと吸水しない場合があります。
- 吸引ホースにはろ過装置を取付けてください。ろ過装置を取付けないと土砂やその他の異物などにより、本機が損傷するおそれがあります。



吐出ホース

1. 吐出側ホース連結器に吐出ホースを取付け、ホースバンドで確実に締付けます。
2. ホース連結器を吐出口に確実に締付けます。



- 吸引･吐出ホースはお買いあげ販売店にご相談の上お買いもとめください。

エンジンをかける前に点検しましょう

⚠警告
点検は平坦な場所で本機を水平にし、エンジンを止めて行ってください。誤ってエンジンがかからないように点火プラグキャップを外してください。

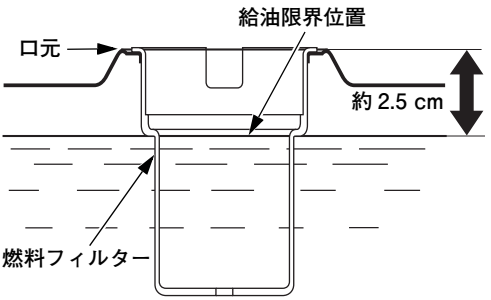
エンジンの周りや下側に燃料、オイルの漏れがないことを確認してください。

燃料の点検

⚠警告
ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
ガソリンを補給するときは
- エンジンを停止してください。
- 換気の良い場所で行ってください。
- 火気を近づけないでください。
- 身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しヤケドを負うおそれがあります。
  本機や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。
- ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれた場合は布きれなどで完全にふき取り、火災と環境に注意して処分してください。
- ガソリンは注入口の口元まで入れず、給油限界位置を超えないように補給してください。入れすぎるとガソリンが燃料給油キャップからにじみ出ることがあります。

点　検

燃料給油キャップを外し、ガソリンがあるか点検します。少ないときには図の給油限界位置を超えないように補給してください。



補　給

使用ガソリン：無鉛レギュラーガソリン

- 補給は燃料キャップを外し、燃料膨張を考慮し口元から約 2.5cm 以上の余裕を取ってください。
- 使用条件により給油限界位置はさらに低くしてください。
- 補給後、給油キャップを確実に締付けてください。

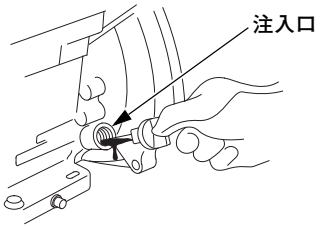
取扱いのポイント

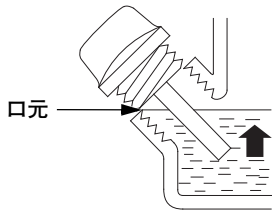
- ガソリンは自然に劣化しますので 30 日に 1 回、定期的に新しいガソリンと入れ換えてください。
- 必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- 軽油、灯油や粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。

エンジンオイルの点検

点　検

エンジンを水平にしエンジンオイル給油キャップを外し、注入口の口元までオイルがあるか点検してください。

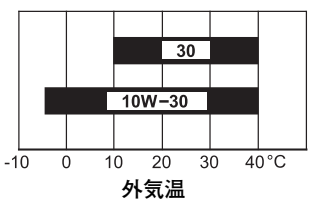




補　給

- 少ないときには新しいオイルを注入口の口元まで補給します。
- 汚れや変色が著しい場合は交換してください。（交換時期、方法は 28、29 頁参照）補給後、エンジンオイル給油キャップを確実に締付けてください。
- 推奨オイル：Honda 純正ウルトラ U 汎用（SAE 10W-30）
  または API 分類 SE 級以上の SAE 10W-30 オイルをご使用ください。

エンジンオイルは、外気温に応じた粘度の
ものを表にもとづきお使いください。

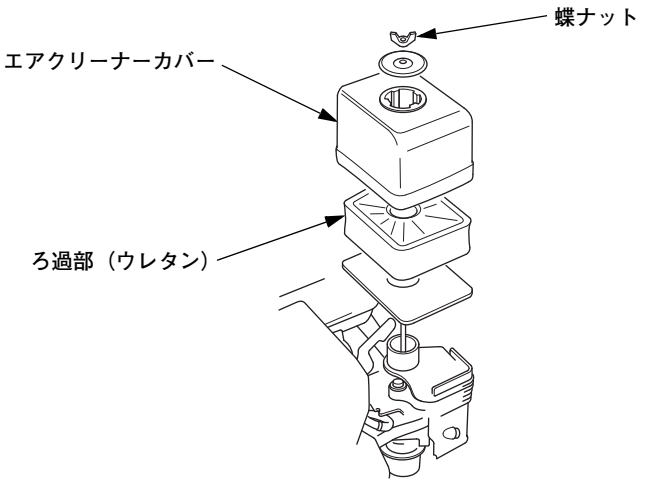


取扱いのポイント

エンジンオイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

エアクリーナー（空気清浄器）の点検

1. 蝶ナットを外し、エアクリーナーカバーを外します。
2. ろ過部（ウレタン）の汚れを点検します。
3. 汚れがひどい場合は、ろ過部の清掃を行ってください。（30 頁参照）



取扱いのポイント

- エアクリーナーカバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- エアクリーナーカバーやろ過部（ウレタン）を装着しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。

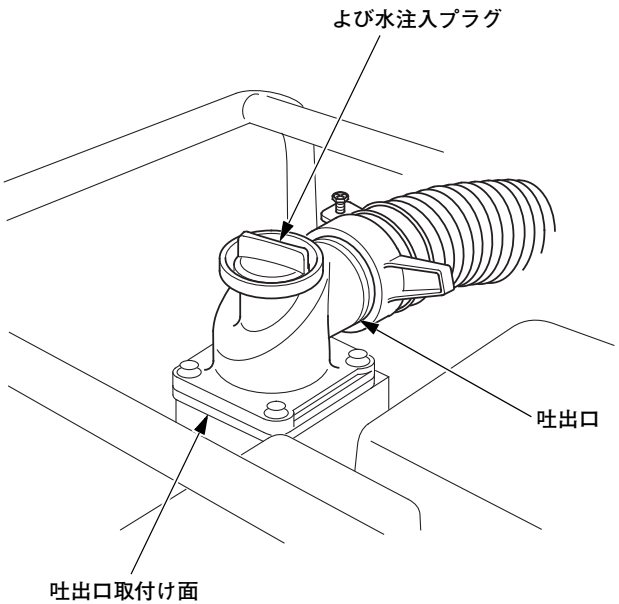
よび水の点検

よび水注入プラグを外し、吐出口の下面までよび水があるか点検します。少ないときには補給してください。

- よび水が少ないとポンプは水を十分に吸い上げません。
- 補給後、よび水注入プラグを確実に締付けてください。

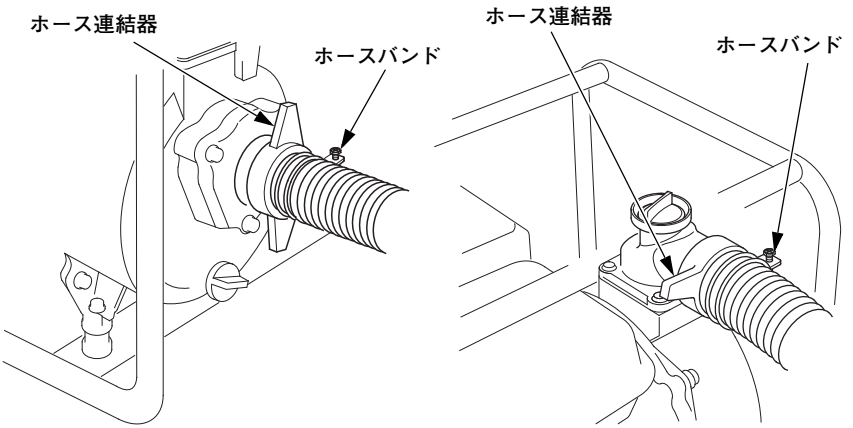
取扱いのポイント

よび水なしでの空運転はしないでください。過熱してポンプのシール部を損傷するおそれがあります。万一空運転した場合は、エンジンを停止して、すぐによび水を入れずポンプ部の温度が下がってから入れてください。



ホースバンド、ホース連結器の締付け点検

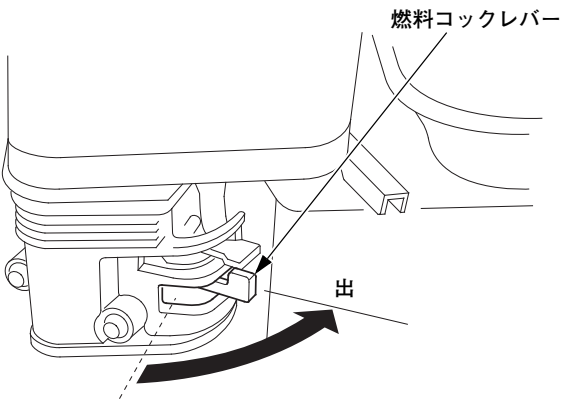
ホースバンド、ホース連結器の締付けにゆるみがないか点検します。
締付けが十分でないときには、空気を吸い込み、吸水しない原因ともなりますので確実に締付けてください。



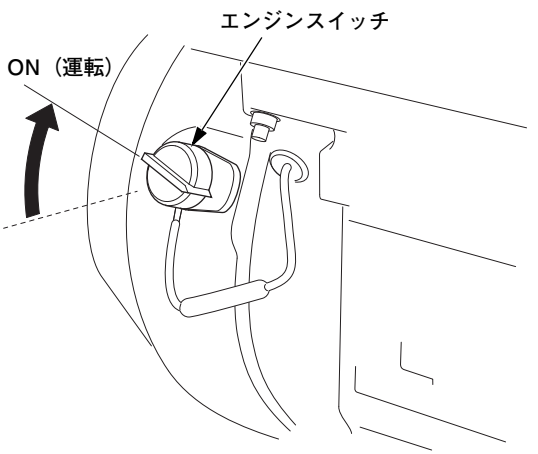
エンジンのかけかた

⚠警告
屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。

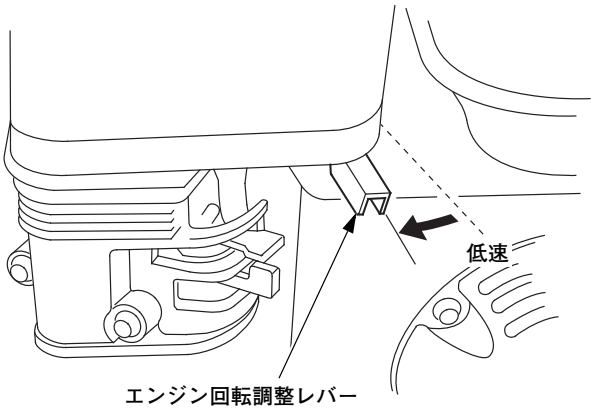
1. 燃料コックレバーを “出” の位置に合わせます。



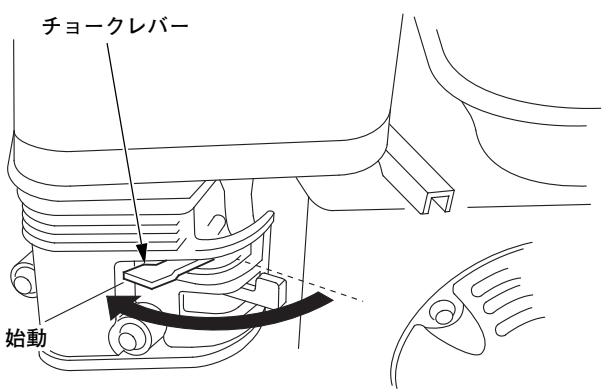
2. エンジンスイッチを “ON”（運転）の位置に合わせます。



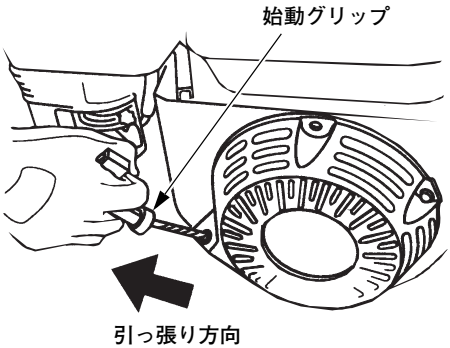
3. エンジン回転調整レバーを “**低速**” の位置から左に少し動かします。



4. エンジンが冷えているときやエンジンがかかりにくいときには、チョークレバーを “**始動**” の位置に合わせます。



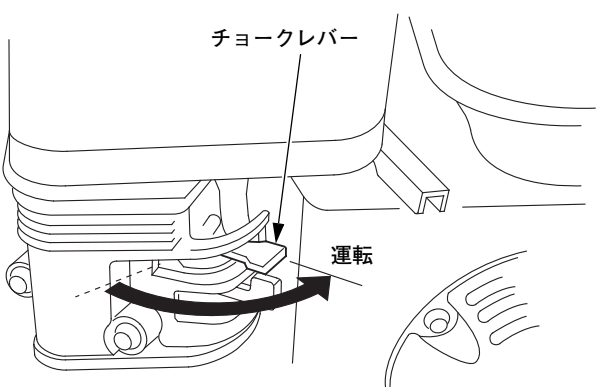
5. 本機をしっかり押さえ、始動グリップを静かに引き、重くなるところで止めます。次に矢印方向に強く引っ張ります。



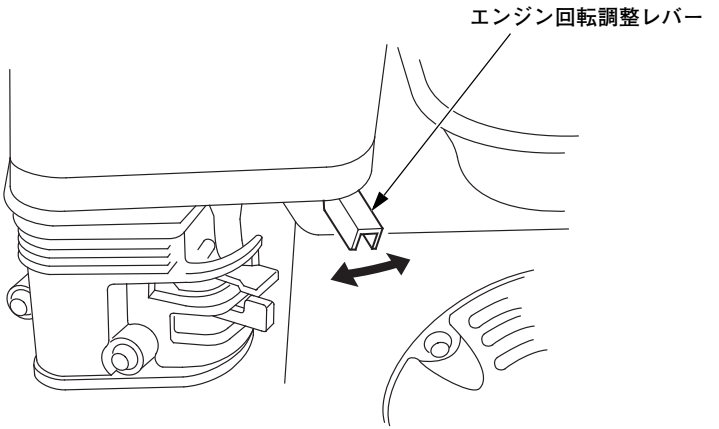
取扱いのポイント

始動グリップを引き上げた位置から手を放さないでください。グリップや回りの部品を破損することがあります。また運転中はグリップを引かないでください。エンジンに悪影響を与えます。

6. 2～3分間暖機運転を行います。
チョークレバーを操作したときは、エンジン回転が安定するのを確認しながら徐々に戻します。



7. エンジン回転調整レバーを使用したい回転に調節します。

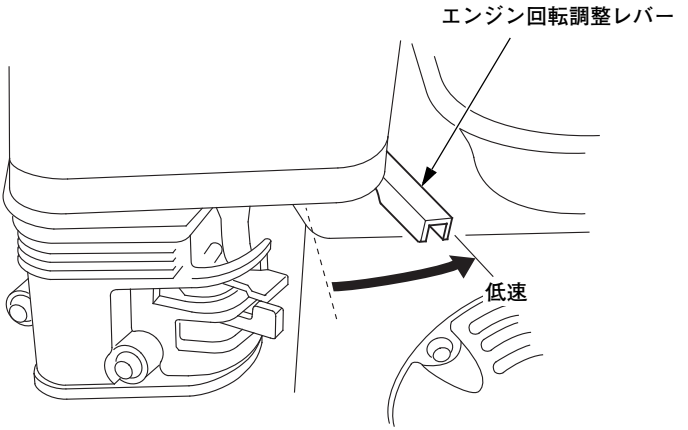


取扱いのポイント

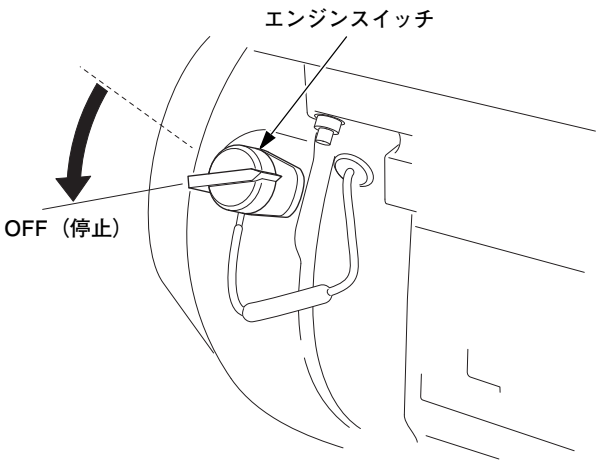
使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店にお問い合わせください。

エンジンのとめかた

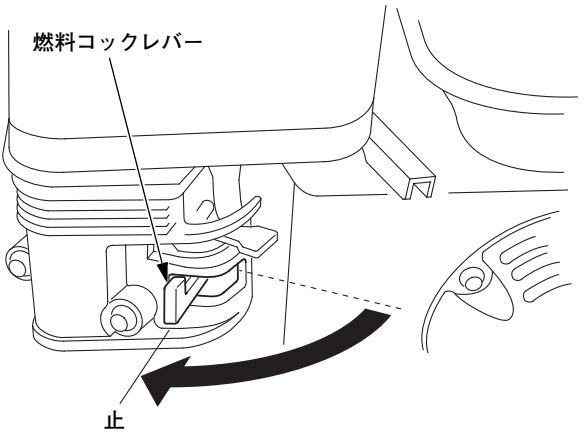
1. エンジン回転調整レバーを右にいっぱいまで戻します。



2. エンジンスイッチを “OFF”（停止）の位置に合わせます。

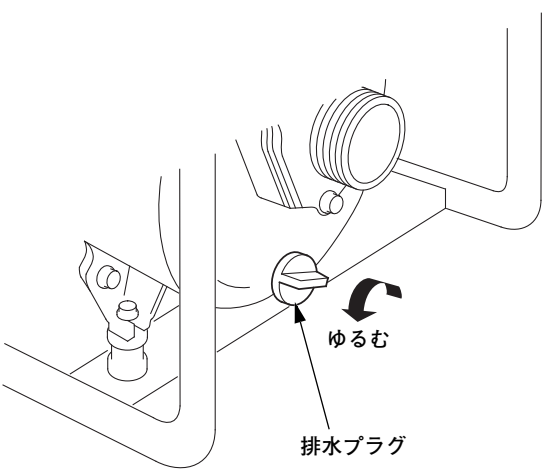


3. 燃料コックレバーを “止” の位置に合わせます。



取扱いのポイント

気温が低く水が凍結する気象条件で使用した場合は、排水プラグを外しポンプ内の水を抜いてください。ポンプ内に水が残っていると凍結し、部品が破損するおそれがあります。



定期手入れを行いましょう

お買いあげいただきましたHondaポンプをいつまでも安全で快適にお使いいただくために定期点検を受けましょう。

定期点検整備項目

点検項目 ＼ 点検時間（3）		作業前 点検	1ヶ月目又は 初回 20 時間 運転目	3ヶ月毎 又は 50 時間 運転毎	6ヶ月毎 又は 100 時間 運転毎	1年毎 又は 300 時間 運転毎
エンジンオイル	点検	○				
	交換		○		○	
エアクリーナー	点検	○				
	清掃			○（1）		
点火プラグ	点検 - 調整				○	
	交換					○
アイドリング回転	点検 - 調整					○（2）
吸入・排気弁の隙間	点検 - 調整					○（2）
燃焼室	清掃	500 時間運転毎（2）（4）				
燃料ろ過カップ	清掃				○	
燃料タンク・ 燃料フィルター	清掃				○（2）	
燃料チューブ	点検	2年毎（必要なら交換）（2）				
インペラ	点検					○（2）
インペラ隙間	点検					○（2）
ポンプインレットバルブ	点検					○（2）

(1) ホコリの多い所で使用した場合は、エアクリーナーの清掃は 10 時間運転毎または 1 日 1 回行ってください。
(2) 適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店またはサービス店で実施していただく項目です。
(3) 点検時期は表示の期間毎または運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。
(4) 表示時間を経過後すみやかに実施してください。

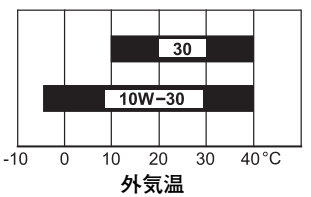
⚠注意
点検は平坦な場所で本機を水平にし、エンジンを止めて行ってください。誤ってエンジンがかからないように点火プラグキャップを外してください。

エンジンオイルの交換

エンジンオイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《推奨オイル》
Honda 純正ウルトラ U 汎用（SAE 10W-30）
または API 分類 SE 級以上の SAE 10W-30 オイルをご使用ください。

エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。

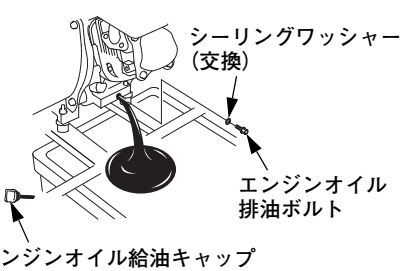


《オイル容量》･･･ WB20XT：0.56 L
WB30XT：0.58 L

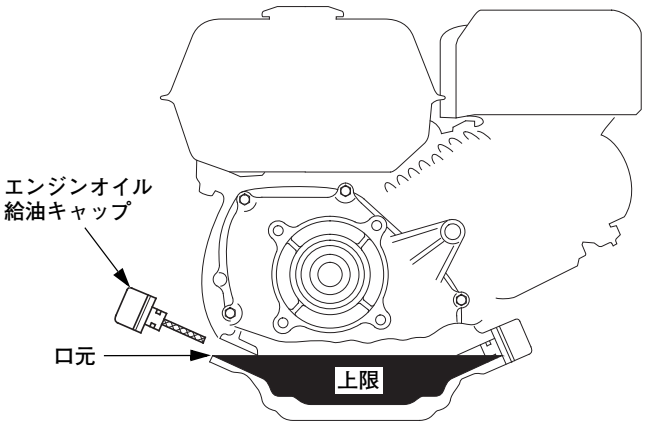
⚠注意
エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラーなどの温度、また油温が高くなっています。十分に冷えてからオイル交換を行ってください。ヤケドをするおそれがあります。

《交換のしかた》

1. エンジンオイル給油キャップ、エンジンオイル排油ボルトを外してオイルを抜きます。



2. オイルが完全に抜けたらエンジンオイル排油ボルトを確実に締付けます。このときシーリングワッシャーは新しい部品と交換してください。
3. エンジンオイルを注入口の口元まで注入します。



4. 注入後、エンジンオイル給油キャップをゆるまないように確実に締付けます。

取扱いのポイント

- 交換後のエンジンオイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。オイルの処理方法は法令で義務づけられています。法令に従い適正に処理してください。不明な場合はオイルをお買いあげになったお店にご相談の上処理してください。
- オイルは、使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換をしてください。
- エンジンオイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

エアクリーナー（空気清浄器）の清掃

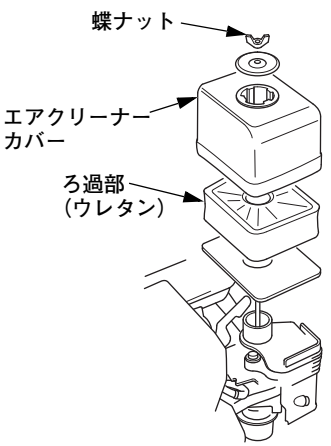
エアクリーナーが目詰まりすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

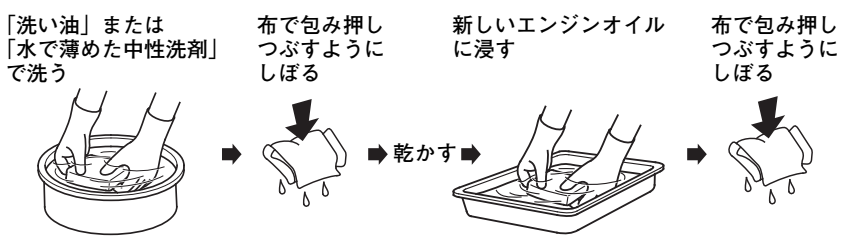
⚠警告

洗い油は引火しやすいので、タバコをすったり、炎などを近づけないでください。火災を起こす可能性があります。
換気の良い場所で行ってください。

《清掃のしかた》

1. 蝶ナットを外し、図のようにエアクリーナーカバーを取り、ろ過部（ウレタン）を取外します。
2. ろ過部（ウレタン）は洗い油または中性洗剤を水で薄めて洗い、よく絞って乾かします。エンジンオイルに浸したあと固く絞ってから取付けます。
3. 点検後はエアクリーナーカバーを確実に取付けたあと接続部がはずれていないか確認してください。





取扱いのポイント

- エアクリーナーカバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- エアクリーナーカバーやろ過部（ウレタン）を装着しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。

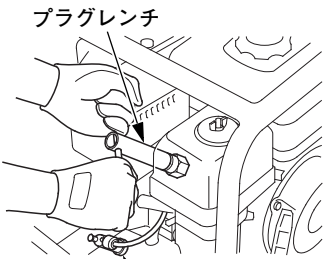
点火プラグの点検・調整・交換

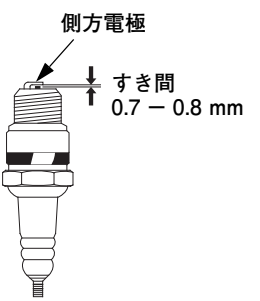
⚠注意
エンジン停止直後マフラーや点火プラグなどは非常に熱くなっており、ヤケドをするおそれがあります。作業はエンジンが十分に冷えてから行ってください。

電極が汚れたり、電極のすき間が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

《標準プラグ》
BPR6ES (NGK)

《点検・調整のしかた》
1. 点火プラグキャップを外します。
2. プラグレンチ、プラグレンチハンドルで点火プラグを取外します。
3. 点火プラグが汚れていたら清掃します。清掃はプラグクリーナーを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店またはサービス店へお申しつけください。プラグクリーナーが無いときは、針金かワイヤーブラシで汚れを落してください。
4. 側方電極を曲げ、火花すき間を下記寸法に調整します。
   火花すき間：0.7 − 0.8 mm
5. 取付けはまず手で一杯までねじ込み、次にプラグレンチで確実に締付けます。
6. 点火プラグキャップを点火プラグに確実に取付けてください。





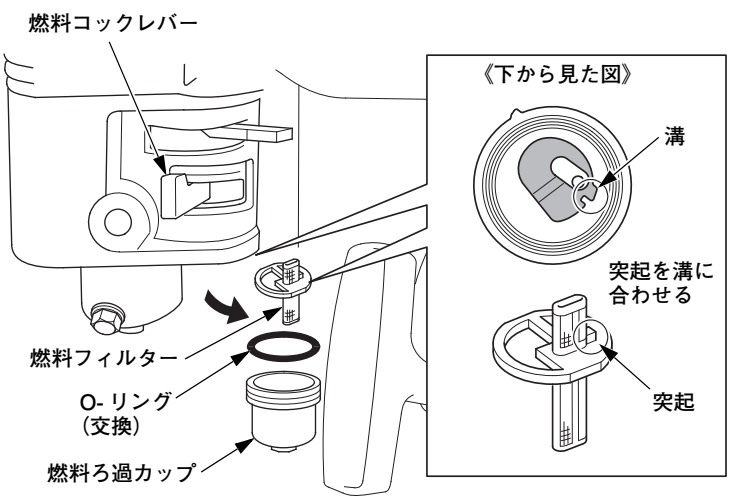
取扱いのポイント

- 故障の原因となるので標準以外の点火プラグを使用しないでください。
  点火プラグの取付けは、ネジ山を壊さないようにまず指で軽くねじ込み、次にプラグレンチで確実に締込んでください。
- 点検調整後は点火プラグキャップを確実に取付けてください。確実に取付けないとエンジン不調の原因となります。

燃料ろ過カップの清掃

⚠警告
ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。
・換気の良い場所で行ってください。
・火気を近づけないでください。
・ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれた場合は、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。

燃料ろ過装置内に水やゴミがたまるとエンジン不調の原因となります。
《清掃のしかた》
1. 燃料コックレバーを “止” にします。
2. 燃料ろ過カップ、O- リング、燃料フィルターを取外します。
3. 燃料ろ過カップ、燃料フィルターを洗油でよく洗い、燃料ろ過カップの底にたまったゴミや水を取り除きます。
4. 清掃後、燃料ろ過カップを確実に取付けます。
   • 燃料ろ過カップには燃料フィルターと新しいO- リングを組付けます。
5. 燃料コックレバーを “出” にし燃料の漏れがないことを確認します。



長期間使用しないときの手入れ

★長時間運転しない場合、または作業を終り長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。
30 日以上使用しないときは、燃料タンクとキャブレター内の燃料を抜いてください。

- 燃料を抜かないと、ガソリンが劣化して次回使用時に始動困難となり、故障の原因となります。
- エンジンを必ず停止し、万一の始動を防ぐため点火プラグキャップをプラグから取外します。

⚠警告

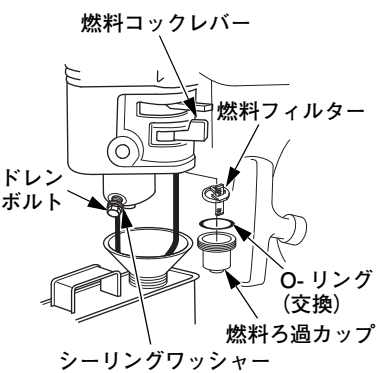
ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。
- 換気の良い場所で行ってください。
- 火気を近づけないでください。
- ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれた場合は、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。

⚠注意

エンジン停止直後はエンジン本体マフラーや点火プラグなどは非常に熱くなっており、ヤケドをするおそれがあります。作業はエンジンが十分冷えてから行ってください。

1. 燃料タンク、キャブレター内の燃料を下記の要領で抜きます。
燃料を受けるため、適切な容器をキャブレターの下方に配置してください。
確実に燃料を受けるため必要に応じ、じょうごなどを使用してください。

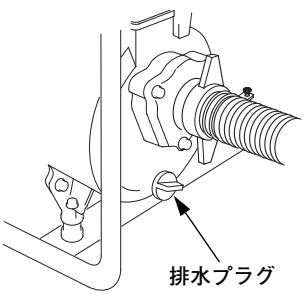
《キャブレター内の燃料の抜きかた》
① 燃料コックレバーを “止” にします。
② ドレンボルトを 1 ～ 2 回転ゆるめて燃料を抜きます。
③ 燃料が出なくなったら、ドレンボルトを確実に締付けます。



《燃料タンク内の燃料の抜きかた》

① 燃料コックレバーを “止” の状態で、燃料ろ過カップを取外します。
② 燃料コックレバーを “出” にし燃料を抜きます。
③ 燃料が出なくなったら、燃料コックレバーを “止” にし、燃料フィルターと新しい O- リングを確実に取付けます。

2. エンジンオイルを交換します。(交換方法は 28、29 頁参照)
3. エアクリーナー (空気清浄器) を清掃します。(清掃方法は 30 頁参照)
4. 始動グリップを引き、重くなったところで止めます。(エンジンバルブが閉じ燃焼室内にホコリなどが入らない状態になります。)
5. 排水プラグを外し、吸引口または吐出口よりきれいな水でポンプ内の土砂、異物などを洗い出します。内部清浄後は完全に水を抜いてください。その後、排水プラグを確実に締付けてください。



6. 湿気、ホコリの少ないところに保管してください。

取扱いのポイント

次回使用時は、新鮮なガソリンを入れてください。

故障のときは

まずご自分で次の点検を行い、その上でなお異常のあるときには、むやみに分解しないでお買いあげ販売店にお申しつけください。

始動しないときは次の点を確かめましょう。

1. 始動方法は取扱説明書通りですか？
2. 燃料はありますか？
3. エンジンオイルは規定量ありますか？（17 頁参照）
4. 点火プラグキャップは確実に取付けられていますか？
5. 点火プラグは汚れ、濡れていませんか、また火花すき間は適正ですか？（31 頁参照）

- 点火プラグの清掃や火花すき間の調整が正しく行えない場合、新しい点火プラグと交換してください。

ポンプが不調なとき、異常な騒音や振動が発生したときは次の点を確認しましょう。

- 平坦な場所に置かれていることを確認してください。
- ホースバンド、ホース連結器に緩みがないことを確認してください。
- ホースに損傷がないことを確認してください。
- よび水が不足していないことを確認してください。（19 頁参照）
- ろ過装置に損傷や目詰まりがないことを確認してください。
- 揚程が高すぎないことを確認してください。（36 頁参照）

少し時間をおいてもう一度確かめましょう。

主要諸元

〈ポンプ〉

項目	仕様諸元	
モデル	WB20XT4	WB30XT3
型式	WABT	WACT
吸込側口径	50 mm（2 インチ）	80 mm（3.1 インチ）
吐出側口径	50 mm（2 インチ）	80 mm（3.1 インチ）
最大全揚程	32 m	23 m
吸込揚程	7.5 m	
最大吐出量	毎分 620 L	毎分 1,100 L
回転方向	反時計方向（吸引口に向かって）	
外観寸法		
全長	485 mm	510 mm
全幅	365 mm	385 mm
全高	425 mm	455 mm
乾燥質量（重量）	21 kg	26 kg

〈エンジン〉

モデル	GX120T3	GX160T2
形式	強制空冷４ストローク単気筒傾斜型（OHV）	
排気量（内程×行程）	122 cm^3 (60.0×43.5 mm)	163 cm^3 (68.0×45.0 mm)
点火方式	トランジスタマグネト点火	
オイル量	0.56 L	0.58 L
タンク容量	2.0 L	3.1 L
点火プラグ	BPR6ES (NGK)	

注意：諸元は予告なく変更することがあります。

本製品についてのお問い合わせ・ご相談は、
まず、Honda 販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記の
お客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　お客様相談センター（イイフレアイオ）

フリーダイヤル　0120 － 112010（イイフレアイオ）

受付時間　9:00 ～ 12:00　13:00 ～ 17:00
〒 351-0188　埼玉県和光市本町 8 － 1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

本製品に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

(1) 製品名、タイプ名
(2) ご購入年月日
(3) 販売店名
(4) フレーム号機＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿（書込み控え欄）

HONDA

© 2018 本田技研工業株式会社

30YG4610
00X30-YG4-6100

Printed in Thailand